

わが国におけるソフトボールの普及に関する研究 A study on spread and development of the softballs in Japan

1K09B219

指導教員 主査 友添秀則先生

吉田 朋矢

副査 深見英一郎先生

【動機】

私は小学3年の頃にソフトボールを始め、それから大学4年までの14年間に渡って男子ソフトボール部の部員として活動してきた。14年間に渡る選手生活では、国民体育大会での3位入賞や全日本大学選手権大会、World Series U-23といった数々の大会での優勝を達成するなど、男子ソフトボール界のトップクラスでプレーしてきた。しかし、大きな大会で良い結果を残してきても、日本では、ソフトボールの知名度の低さゆえ、周りからあまり評価されることはなかった。さらに日本では、「ソフトボールは女性のスポーツである」という考え方が大半を占めてさえいる。このような考えを変えるにはどのようにすればいいのだろうかということが気になりソフトボールについて深く研究したいと思った。

【目的】

本研究の目的は、わが国におけるソフトボールの発展上の問題点を把握するとともに、その内容を踏まえて、今後さらにわが国においてソフトボールを普及させていくための提案を行うことにある。

【方法】

本研究は、基本的に関連する文献の講読により行う。しかし、著者も限られてしまうととも、ソフトボールに関する文献は少ないために、それらの文献の情報は古いものが多くになってしまう。そのため、新しい情報を得るために、アメリカのソフトボール協会や日本のソフトボール協会のホームページなどからも情報を収集する。

【第1章】ソフトボールの誕生と組織化の歴史

ソフトボールは、イギリスにおいて12・13世紀に発生したクリケットが、ストボールやラウンダースを経て、それらが米国に移入され野球と差別化されたこと誕生している。その後、ソフトボールは日本を含む多くの国へと広まり、オリンピックでも正式種目としてアトランタオリンピック、シドニーオリンピック、アテネオリンピック、北京オリンピックの4大会で行われたが、それ以降は正式種目から外れ、現在にいたっている。

【第2章】日本におけるソフトボールの歴史

日本にソフトボールが導入されたのは、1921（大正10）年アメリカ留学から帰国した東京高等師範学校の教授である大谷武一によって持ち帰られたときのことであった。ソフ

トボールはルールやゲーム性が好まれ、瞬く間に普及していった。しかし、1872（明治5）年には野球が男子のスポーツとして日本に導入されていたため、ソフトボールは女子のスポーツとして定着し、その後、日本では、ソフトボールは女子を中心として発展していった。その後、日本女子はオリンピックで優勝するなど世界的な強豪国となっている。

【第3章】日本におけるソフトボールの普及状況と今後の課題

ソフトボールのわが国における普及状況を、日本ソフトボール協会から得たデータをもとに、競技人口の面から調べた。もっともソフトボールが普及していたのは高校女子であった。男女間で比較したところ、女子の競技人口が男子の競技人口を上回ったのは高校だけであり、大学・クラブ・実業団では男子の方が競技人口は多かった。以上の状況をふまえ、ソフトボールをさらにわが国で普及させるための方策として、女子が高校卒業後も競技を継続するような競技指導の充実や、高校男子生徒がソフトボールに取り組む場としてのクラブの確立が提案された。

【結章】

ソフトボールが日本だけでなく世界で更なる普及・発展を遂げるには、オリンピックへの競技復帰が一番の鍵となる。オリンピックで並列的に扱われる野球と連携し世界の多くの地域に普及活動を行うことが、オリンピック競技への復活及びソフトボールの発展につながると考えられる。

日本国内におけるソフトボールの普及のために考えられることは、日本ソフトボール協会や各県のソフトボール協会などからの情報発信を充実させることであると考えられる。また、競技人口の少ない都道府県の競技人口を増やすには、全国大会や日本リーグなどを競技人口の少ない都道府県で開催し、その地域の人々にソフトボールの魅力を伝えることも、ソフトボールのさらなる普及に繋がるだろう。